島の下神社の狛犬（コラム「まちの貴重な文化財」）

読みもの・コラム

投稿者：:

Posted on : 2021-9-15 10:00:00

広報ふらの・コラム「まちの貴重な文化財」No.3。
9月号のテーマは島の下神社の狛犬です。

FURANO CULTURAL ASSETS

03 まちの貴重な文化財

島ノ下神社の狛犬

1940年(昭和15)寄進　字島ノ下

神社の参道に左右一対で鎮座する狛犬(こまいぬ)。お座りのスタイルで鎮座していることが多く、拝殿に向かって右側の口を開けた「阿形(あぎょう)」はよく見ると実は獅子で、左側の口を閉じた「吽形(うんぎょう)」が狛犬です。江戸時代から神社参道に設置されて庶民に親しまれ、時代が下ると獅子と狛犬の姿や形の違いが曖昧になります。

島ノ下を見守る「構え獅子」

市内5つの神社と大宝寺に狛犬が鎮座し、大正８年に富良野神社へ設置されたものが市内最古の狛犬です。犬の型式は実に多様で、島ノ下神社にある狛犬は「出雲型」という道内ではまれな「構え獅子」です。出雲型は島根県宍道町来待地区に産出する来待石で製造。道内では明治～昭和10年代に出雲型の設置例があります。島ノ下の狛犬が島根地方の製造かは不明ですが、設置当時姫路にあり、現在は富良野に店を構える三和藤商店が寄進者に名を連ねるので、これが謎を解くカギかもしれません。

問 富良野市博物館 ☎42 - 2407